

社会調査にみる東日本大震災が与えた災害関心の影響
The Effects of the East Japan Great Earthquake
on Residents' Concern about Disasters Based on a Mass Survey

田中 淳 Atsushi Tanaka

目次

1. 調査目的と調査概要
 - 1.1 調査概要
2. 日常生活の不安と災害
 - 2.1 日常生活の不安と自然災害
 - 2.2 原子力事故への不安
 - 2.3 自然災害種別毎の不安
3. 災害への行動面の動向
 - 3.1 災害対応
 - 3.2 災害の語り継ぎ

* 本調査はライフライン・マスコミ連携講座寄付金を用いて実施した。

田中 淳 東京大学大学院情報学環附属総合防災情報研究センター

1. 調査目的と調査概要

総合防災情報研究センターでは、災害情報の認知度や防災意識の動向に関する客観的な基礎データを長期にわたって蓄積し、災害情報の課題を分析することを目的に、定期調査を年1回実施してきた。2015年度調査で2011年東北地方太平洋沖地震が発生してから5回の調査結果が蓄積されてきており、その結果の時系列分析を通して、大震災の影響を中心にこの5年間の変化を明らかにする。

1.1 調査概要

調査方法と調査概要は以下の通り。

- i) 対象者：全国の20歳から69歳までの男女3,000サンプル
ただし、2009年度および2010年度は2,000サンプル。
- ii) 抽出方法：都道府県毎に、人口構成比で比例配分
- iii) 調査方法：WEB調査

表 1.1.1 調査期間とサンプル数

	調査期間	サンプル数
2009年度	2009年12月18日～12月24日	2,000
2010年度	2010年12月21日～12月27日	2,000
2011年度	2011年12月20日～12月27日	3,000
2012年度	2012年12月21日～12月27日	3,000
2013年度	2014年01月08日～01月15日	3,000
2014年度	2015年01月08日～01月15日	3,000
2015年度	2016年01月08日～01月15日	3,000

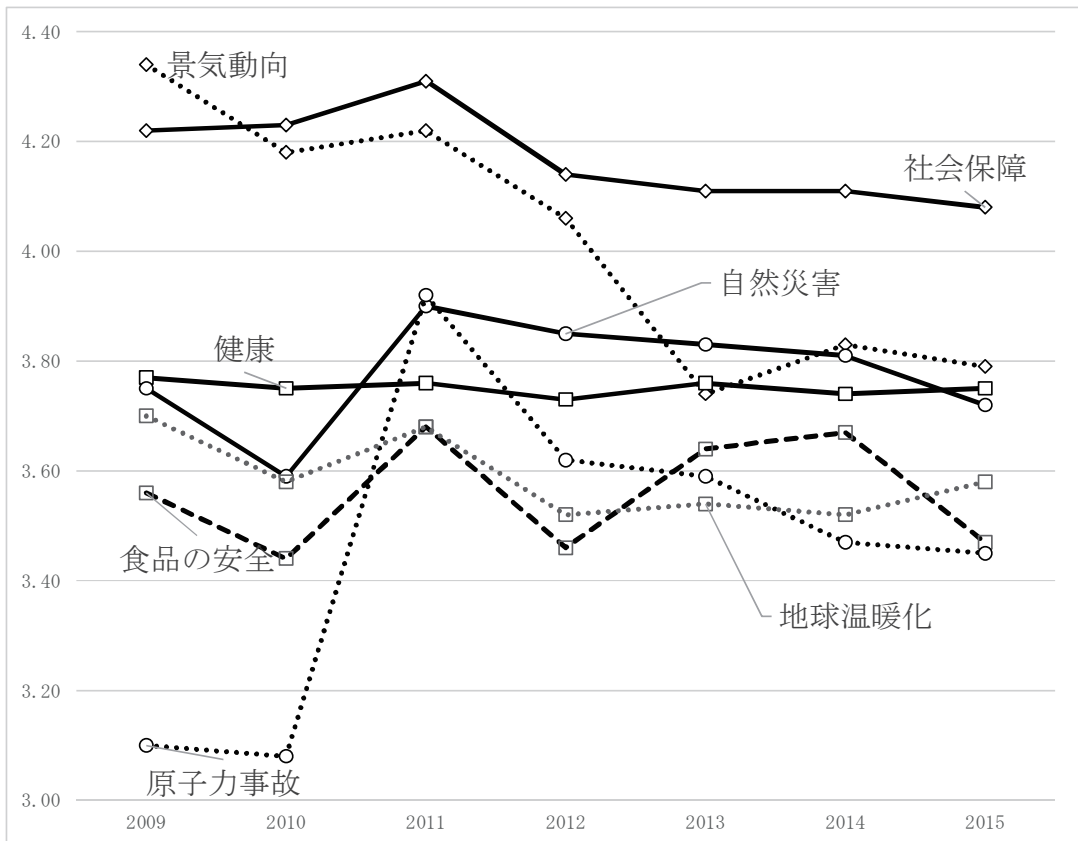
2. 日常生活の不安と災害

2.1 日常生活の不安と自然災害

現代社会には様々なリスクが存在する。生活を送っていくうえでこれらの潜在的リスクを想定し、あるいは実際にリスクが顕在化して対応に迫られることが求められる。自然災害もそれらのリスクのひとつに過ぎず、他のリスクとの相対的な優先度の中で、政府や企業、個人の対策は決定される。その優先度のひとつの指標として日常生活の中で感じる様々な不安と自然災害への不安とを経年で比較したのが表 2.1.1 および図 2.1.1 である。表 2.1.1 および図 2.1.1 は、「非常に不安を感じる」に5点、「やや不安を感じる」に4点、

表 2.1.1 日常生活で感じる不安の推移（加重平均）

	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
景気動向	4.34	4.18	4.22	4.06	3.74	3.83	3.79
健康	3.77	3.75	3.76	3.73	3.76	3.74	3.75
犯罪	3.73	3.56	3.58	3.48	3.44	3.42	3.42
食品の安全	3.56	3.44	3.68	3.46	3.64	3.67	3.47
感染症	3.71	3.55	3.49	3.55	3.51	3.59	3.42
自然災害	3.75	3.59	3.90	3.85	3.83	3.81	3.72
交通事故	3.63	3.54	3.62	3.61	3.61	3.60	3.58
原子力事故	3.10	3.08	3.92	3.62	3.59	3.47	3.45
地球温暖化	3.70	3.58	3.68	3.52	3.54	3.52	3.58
社会保障	4.22	4.23	4.31	4.14	4.11	4.11	4.08



注) グラフは上位の項目のみ。

図 2.1.1 日常生活で感じる不安の推移

「どちらともいえない」に3点、「あまり不安を感じない」に2点、「まったく不安を感じない」に1点の重みをかけた加重平均値で示した。

表 2.1.1 および図 2.1.1 からわかるように、自然災害は「年金や社会保障」、「景気動

向」、「自分や家族の健康」などと並んで常に上位を占めている。東日本大震災が発生した2011年度に一気に0.31ポイント増の3.90まであげ、順位も4位に浮上した。その後、2013年度以降は漸減傾向にあり、2015年度は自然災害への不安の加重平均値は3.72になっている。2015年度においても、第1位の「年金や社会保障」（加重平均値4.08）には及ばないものの、「景気動向」（加重平均値3.79）や「自分自身や家族の健康」（加重平均値3.75）と同程度の値となっており、第2グループを形成している。また、自然災害への不安の加重平均3.72という値は、震災前の2009年度が3.75、2010年度が3.59であったことと比べると、震災発生から5年を経過して、自然災害への不安は震災前の水準に戻っている。

図2.1.1からもわかるように、自然災害は「年金や社会保障」、「景気動向」、「自分や家族の健康」などと並んで常に上位を占めている。2015年度は自然災害への不安の加重平均値は3.72と、第1位の年金や社会保障（4.08）には及ばないものの、景気動向（3.79）、自分自身や家族の健康（3.75）と同程度で第2グループを形成している。東日本大震災の発生した2011年度に一気に0.31ポイント増の3.90まであげ、順位も4位に浮上した。2013年度以降は漸減傾向にあり、震災前の水準に戻っているが、不安の上位を占めている。

2.2 原子力事故への不安

その一方で、「原子力事故」への不安は事故が発生した2011年度には3.92まであがり、自然災害の3.90を若干上回る第3位となった。しかし、2012年度に0.3ポイント下げて3.62へ下げた以降漸減傾向に入り、2015年度には震災間の水準と比べると高い水準にあるが、3.45まで下がってきている。

表 2.2.1 日常生活で感じる不安の上位

(非常に不安とやや不安の合計値)

	2010	2011	2012	2013	2014	2015
第1位	社会保障 84.4	社会保障 86.5	社会保障 81.4	社会保障 80.5	社会保障 79.1	社会保障 77.9
第2位	景気動向 84.3	景気動向 85.2	景気動向 79.7	自然災害 69.8	景気動向 69.9	景気動向 67.5
第3位	健康 69.7	自然災害 72.0	自然災害 71.2	健康 68.6	自然災害 69.1	健康 67.0
第4位	自然災害 59.3	原子力事故 69.8	健康 67.0	景気動向 65.6	健康 67.3	自然災害 64.4
第5位	地球温暖化 59.2	健康 68.9	交通事故 59.2	食品の安全 62.1	食品の安全 63.0	地球温暖化 58.0

注) 下段の数値はパーセンテージ

表 2.2.2 日常生活で感じる不安の上位

(非常に不安の選択率。単位%)

	2010	2011	2012	2013	2014	2015
第1位	社会保障 43.0	社会保障 48.0	社会保障 38.1	社会保障 36.1	社会保障 38.2	社会保障 36.4
第2位	景気動向 39.6	景気動向 40.6	景気動向 32.3	自然災害 22.6	景気動向 23.6	景気動向 20.7
第3位	健康 17.7	原子力事故 32.3	自然災害 24.0	原子力事故 21.5	自然災害 22.8	自然災害 19.8
第4位	地球温暖化 17.5	自然災害 25.6	原子力事故 20.5	景気動向 20.1	健康 18.7	健康 19.6
第5位	自然災害 14.0	地球温暖化 20.0	健康 18.1	健康 18.8	原子力事故 17.9	原子力事故 地球温暖化 16.4

注) 下段の数値はパーセンテージ

同様の傾向は、「非常に不安」と「やや不安」に感じる比率の合計を示した表 2.2.1 にも読み取れる。しかし、これを「非常に不安」だけに限ると、表 2.2.2 に示したように、原子力事故は上位にあることがわかる。

原子力事故への不安の推移を地域によってその結果に違いがあるのかをみるために表 2.2.3 に「非常に不安」と「やや不安」の合計を、また表 2.2.4 に震災前年を 100 とした指数を示した。表 2.2.3 および表 2.2.4 では全国平均より 3 ポイント以上高い地方を橙色に、逆に 3 ポイント以上低い地に薄い青を付けた。

表 2.2.3 をみると、全般に、東日本で不安を強く感じていることになる。2011 年度には東北地方では 8 割を超える人が不安を表明しており、関東地方および北海道でも 7 割を超えている。他方、四国地方で 55.4%、九州・沖縄地方で 64.6%となっている。その後も地

表 2.2.3 原子力事故への不安の地方別変化

(非常に不安とやや不安の合計値)

	2010	2011	2012	2013	2014	2015
北海道	38.2	71.4	63.2	59.4	51.9	52.6
東北	33.6	81.6	69.4	64.3	60.7	49.0
関東	32.9	73.0	61.8	58.3	52.5	51.2
中部	36.6	68.4	57.5	53.8	53.0	49.7
近畿	32.3	66.8	53.0	49.5	48.3	50.1
中国	37.6	67.6	56.3	50.6	44.3	44.3
四国	37.3	55.4	58.7	56.5	42.4	45.7
九州・沖縄	41.4	64.6	52.8	53.4	48.1	50.7
全国平均	35.2	69.8	58.7	55.4	51.1	50.0

表 2.2.4 原子力事故への不安の地方別変化
 (非常に不安とやや不安の合計値の2010年を100とした指数)

	2010	2011	2012	2013	2014	2015
北海道	100	186.9	165.4	155.5	135.9	137.8
東北	100	242.9	206.5	191.4	180.7	145.8
関東	100	221.9	187.8	177.2	159.6	155.5
中部	100	186.9	157.1	147.0	144.8	135.8
近畿	100	206.8	164.1	153.3	149.5	155.1
中国	100	179.8	149.7	134.6	117.9	117.9
四国	100	148.5	157.4	151.5	113.6	122.4
九州・沖縄	100	156.0	127.5	129.0	116.1	122.6

方別の不安は、東高西低の傾向が続くか、2015年度には東北地域でも50%を切るまでに減少してきている。

表 2.2.4 の2010年を100とした指数でみると、東京電力福島第1発電所事故によって、東北地方、関東地方ならびに近畿地方で2倍に不安の程度が跳ね上がっている。この傾向は2015年度においても継続しており、3地方は震災前の1.5倍程度の高い水準を維持している。

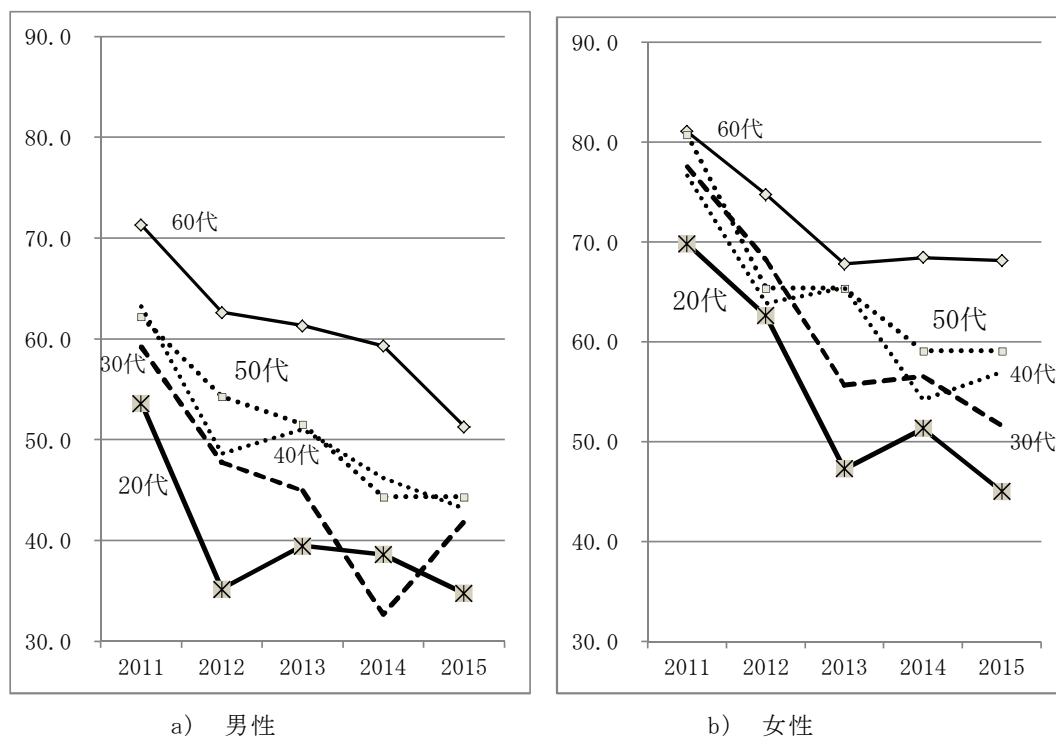
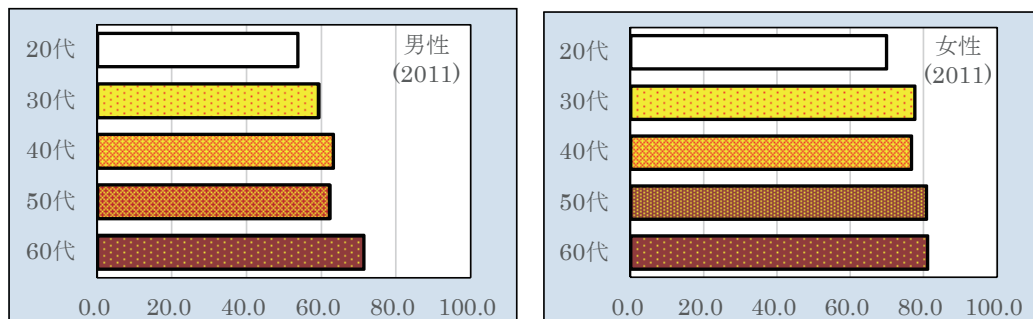


図 2.2.1 男女別・世代別の原子力事故への不安の時系列変化

a) 2011



b) 2015

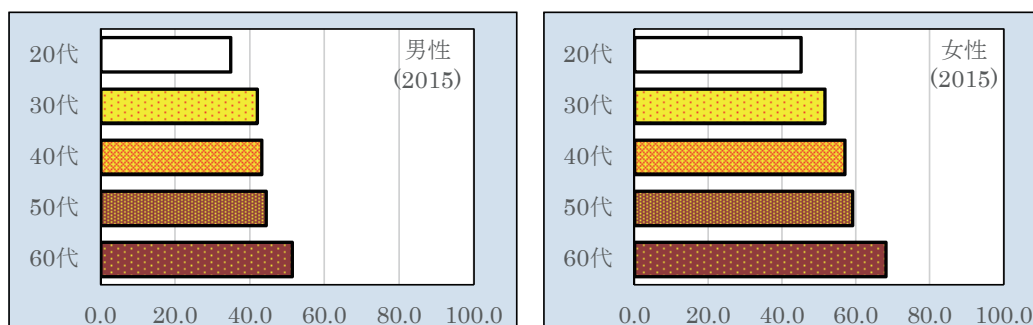


図 2.2.2 原子力事故への不安(性別・年代別)

また、性別・年代別に見たのが、図 2.2.1 であるが、男性と比べて女性が、年代が上がるにつれて不安は強いという一般的な傾向を読み取ることができる。ただし、女性では震災直後は年代による差は小さく、30代の不安は高い水準にあった。子育て世代の不安を反映した結果であると考えられよう。しかし、2013 年度あたりから不安の程度は若い層で減少しており、男性の世代別傾向と似た形となっている。

2.3 自然災害種別毎の不安

自然災害の中では、これまでと同様に、「地震」が突出している。「非常に不安を感じる」に 5 点を、「全く不安を感じない」に 1 点を与える加重平均の結果を表 2.3.1 と図 2.3.1 に示した。地震が、他の災害と比べて不安の程度が非常に高い。東日本大震災の発生前後を通じて、唯一 4 点台となっている。しかも、東日本大震災の発生による顕著な変化も認められない。

その他の災害では高くても 3.2 台であり、東日本大震災が発生した 2011 年度の津波が、また 2013 年度・2014 年度の竜巻に限られる。なかでも、竜巻への不安が、実際に発生した被害統計と比べると、高いことが目立つ。メディア報道との関連も含めた分析が必要となる。

表 2.3.1 自然災害に対する不安

注) 値は加重平均

	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
地震	4.25	4.09	4.29	4.21	4.17	4.15	4.09
津波	2.55	2.62	3.20	3.08	3.09	3.00	3.01
河川氾濫	2.73	2.77	3.17	3.08	3.12	3.08	3.12
土砂災害	2.72	2.72	3.00	2.94	2.94	2.96	2.97
火山噴火	2.54	2.60	2.82	2.83	2.79	3.03	2.96
大雪	2.71	2.71	2.82	2.85	2.89	3.11	2.89
竜巻	2.86	2.88	2.90	3.15	3.26	3.20	3.10

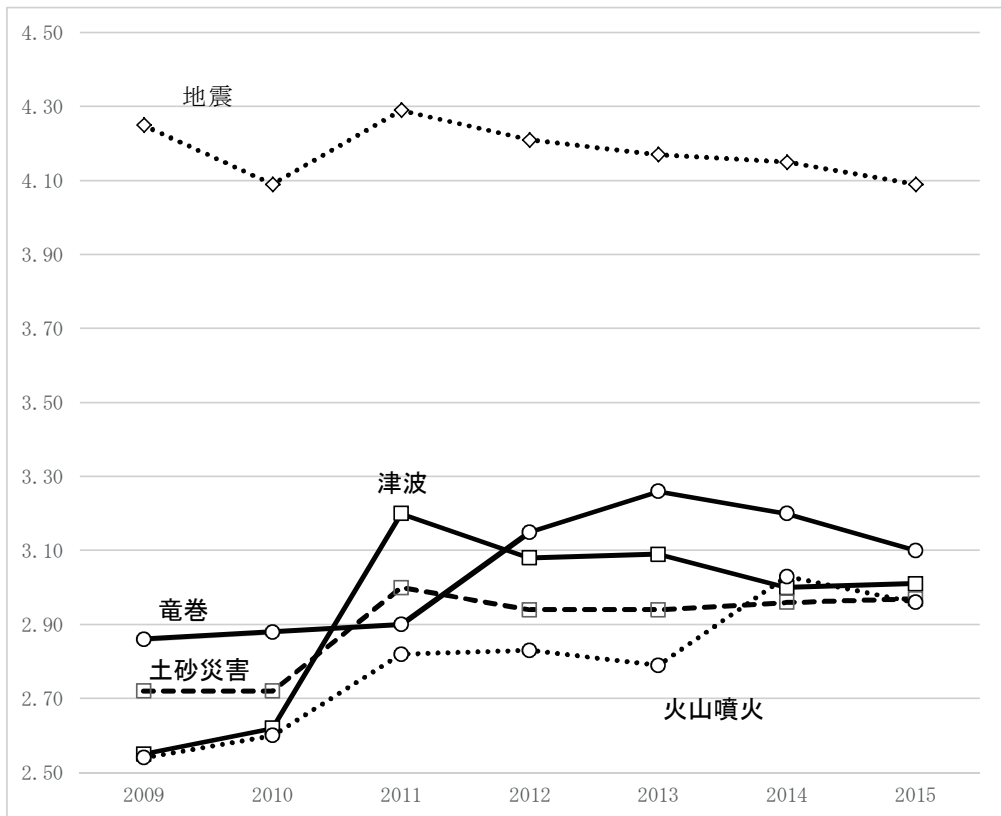


図 2.3.1 不安を感じる自然災害

加重平均でみると津波は急速に低下し、竜巻よりも不安の程度は低いということになる。しかし、「非常に不安」という強い層の率について見ると、表 2.3.2 および図 2.3.2 に示したように不安の程度は強い。しかも、不安程度の減少傾向は小さくなる。東日本大震災の発生によって、確実に津波への不安を高めたとみることができる。

表 2.3.2 災害毎に見た不安

	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
土砂災害	5.7	5.1	8.3	7.4	7.5	8.1	8.0
火山噴火	4.7	4.5	7.4	6.8	6.4	9.4	8.4
竜巻	6.5	5.5	6.5	8.8	10.6	9.9	8.7
大雪	8.1	7.0	7.7	8.3	8.8	12.3	8.8
河川氾濫	4.8	5.6	10.2	8.4	8.7	8.8	9.9
津波	5.0	5.1	15.4	12.7	11.8	11.1	11.2
地震	43.8	34.2	45.4	41.8	39.2	38.8	35.1

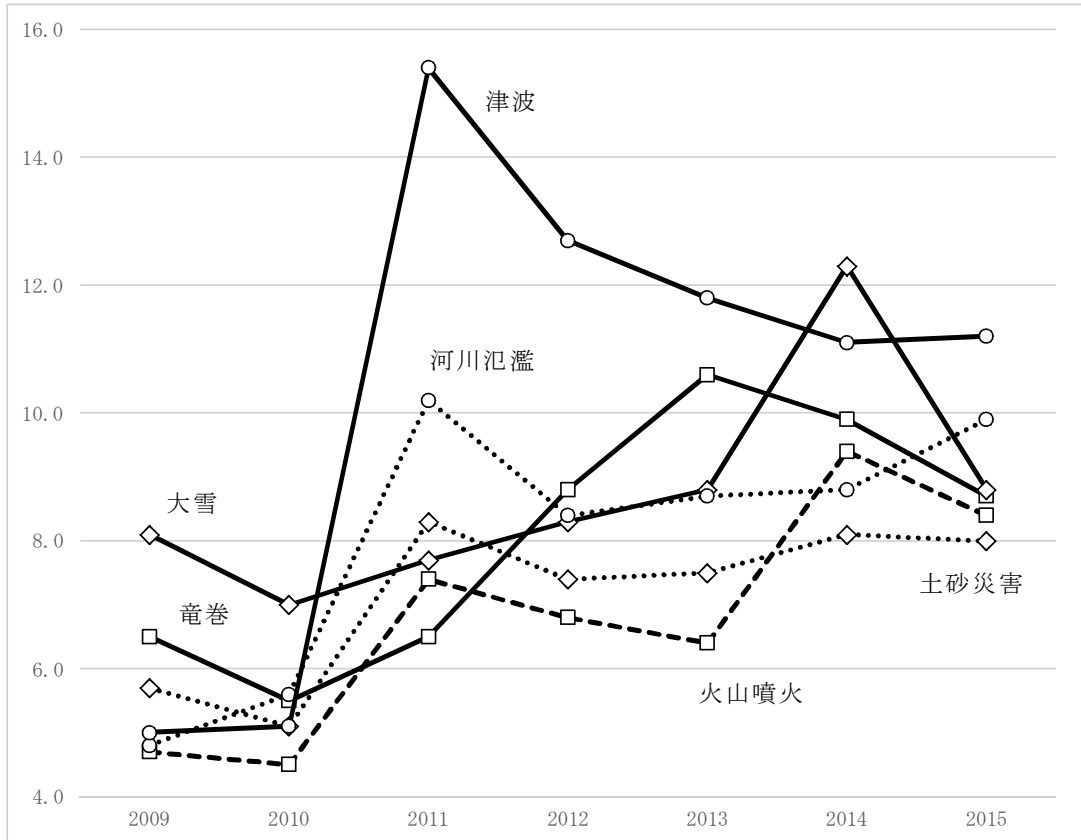


図 2.3.2 災害毎に見た不安

さらに表 2.3.3 に示したように、南海トラフによる津波が懸念されている四国では、5 年間は経過しても、非常に不安の程度は高い。震災発生年の 2011 年度に津波に対する 52.2%と震災前よりも 10 ポイント上がったが、2012 年度にはさらに 63.0%まで上がった。東日本大震災が発生した 2011 年度よりも、震災の教訓を受けた巨大想定が発表された 2012 年度や 2015 年度の方が不安の程度は高くなったことになる。2015 年度においても 58.7%と不安の程度は高い。

表 2.3.3 津波への不安の程度

	2010	2011	2012	2013	2014	2015
北海道	22.5	48.9	48.1	46.6	33.8	35.3
東北	26.7	51.0	50.5	42.9	42.3	35.2
関東	22.2	42.0	37.0	36.4	33.7	35.9
中部	25.3	42.1	35.3	38.6	40.1	32.9
近畿	18.8	40.1	38.9	40.5	36.3	34.0
中国	21.4	38.6	41.5	40.3	34.7	38.6
四国	42.4	52.2	63.0	59.8	44.6	58.7
九州・沖縄	26.8	54.0	45.4	49.9	38.9	41.3

これに対して、同じ南海トラフ巨大地震津波が懸念されている近畿や中部に関しては、不安は年々低下する傾向にある。このうち近畿については、大阪や兵庫、京都などの人口が大きい所にひきずられて津波への不安は低くなっていると考えられるため、必要な地域ではきちんと津波への不安は維持されているように見える。ただし、愛知県、三重県、静岡県を含む中部で低い点は、人口の多い名古屋市の被害想定結果に影響を受けている可能性はあるが、説明が難しい。

このように一般的に、大きな災害があった年度に不安を感じる率は高まる傾向がある。表 2.3.4 および表 2.3.5 に示したように、2011 年度には、紀伊半島で大規模な河川氾濫および深層崩壊が発生したことから土砂災害や河川氾濫が高まっている。また、2015 年度の河川氾濫が高まっていることは、茨城県常総市で鬼怒川が、また宮城県大崎市で渋井川が破堤・決壊した関東・東北豪雨の影響と見られる。

しかし、2013 年伊豆大島土砂災害や 2014 年広島土砂災害など災害の影響は予想されるほど認められない。中国地方および中部地方で不安を高めているものの、非常に不安とやや不安とを合わせた数字でみても、2013 年には 32.7% だったものが、2014 年には 33.2% になっているに留まっている。

表 2.3.4 地域別に見た河川氾濫への不安

	2010	2011	2012	2013	2014	2015
北海道	25.8	39.1	47.4	39.8	41.4	37.6
東北	29.5	42.8	45.4	40.3	43.9	40.8
関東	27.0	39.2	34.0	36.5	35.0	37.1
中部	32.5	46.2	39.9	39.6	43.8	39.7
近畿	22.1	39.3	37.5	42.2	38.3	39.1
中国	23.1	42.6	44.9	40.9	34.1	40.9
四国	37.3	47.8	39.1	52.2	35.9	40.2
九州・沖縄	32.2	44.2	43.7	42.8	35.4	38.9

表 2.3.5 地域別に見た土砂災害への不安

	2010	2011	2012	2013	2014	2015
北海道	27.0	35.3	39.8	36.8	35.3	27.1
東北	28.8	41.3	42.9	38.8	33.7	33.2
関東	21.9	32.5	28.8	28.2	29.3	30.4
中部	29.5	33.3	29.9	30.7	35.9	31.2
近畿	22.8	30.5	33.2	32.8	32.6	33.0
中国	33.3	42.0	39.8	39.2	44.3	46.6
四国	35.6	48.9	37.0	41.3	27.2	35.9
九州・沖縄	33.2	40.7	40.7	38.3	36.3	39.2

2014年9月27日に噴火した御嶽山の噴火災害を経験し、ついで11月に阿蘇山で断続的な噴火が発生しており、37.8%と不安を高めている。2013年度には27.2%であったことと比べると、10ポイント高まったことになる。その後2015年5月には箱根山で噴火警戒レベルが2に引き上げられ、口永良部島新岳で噴火が発生した。表2.3.6に示したように、その影響で関東地方と九州地方で火山噴火への不安は高い水準で維持されている。

表 2.3.6 地域別に見た噴火災害への不安

	2010	2011	2012	2013	2014	2015
北海道	27.0	39.1	39.8	28.6	36.8	34.6
東北	21.9	32.7	34.7	28.6	48.5	33.7
関東	26.0	34.1	37.1	33.8	44.0	40.9
中部	21.8	25.1	24.6	23.1	34.6	29.9
近畿	13.5	19.3	20.2	16.9	28.1	24.2
中国	12.0	18.2	19.9	16.5	23.3	21.6
四国	18.6	21.7	17.4	18.5	17.4	13.0
九州・沖縄	29.1	39.2	36.0	35.4	45.1	42.5

3. 災害への行動面の動向

3.1 災害対応

災害への不安は、当該年の災害の発生状況に敏感に反応している。しかし、不安の結果として期待される具体的な防災行動にまでは必ずしも効果を持っている訳ではない。表3.1.1に耐震化や地震保険等地震対策や地盤のかさ上げや地下・半地下対策など水害対策、すべての災害に共通な水や食料等の備蓄の実施状況を示した。数値は対策が必要な人のうち、対策をとっている人の比率を示す。たとえば、新耐震の家では「対策の必要がない」と考えられるからである。ちなみに住宅の建て替えに伴って新耐震建築が増えるため、耐震化の必要がないという人は、2009年度に12.9%であったものが、2011年度には14.1%、

2013年度には15.7%、2015年度には16.4%と徐々に増加している。

全体的には地震対策と比べて水害対策の実施率は低いことが読み取れる。また、地震対策の中で地震保険の加入率は2015年度には42.2%となっているものの、耐震化実施率は25.9%、家具の固定は29.6%と3割を下回っており、また2011年度に高まっているとは認められない。比較的成本の高い対策にまでは結びつきにくい様子が見えてくる。

表 3.1.1 自宅の防災対策の実施率

	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
耐震化	25.6	24.7	25.1	24.2	24.5	26.8	25.9
地震保険	38.7	37	37.7	40.5	38.7	41.3	42.2
家具固定	24.9	26.6	29.2	29.5	27.5	28.6	29.6
地盤かさ上げ	14.4	13.8	12.3	11.4	12.9	13.5	14.8
地下対策	12.9	9.2	9.4	8	8.1	9.8	10.9
水等備蓄	30	25.2	33.3	34.4	34.9	34.8	35.9

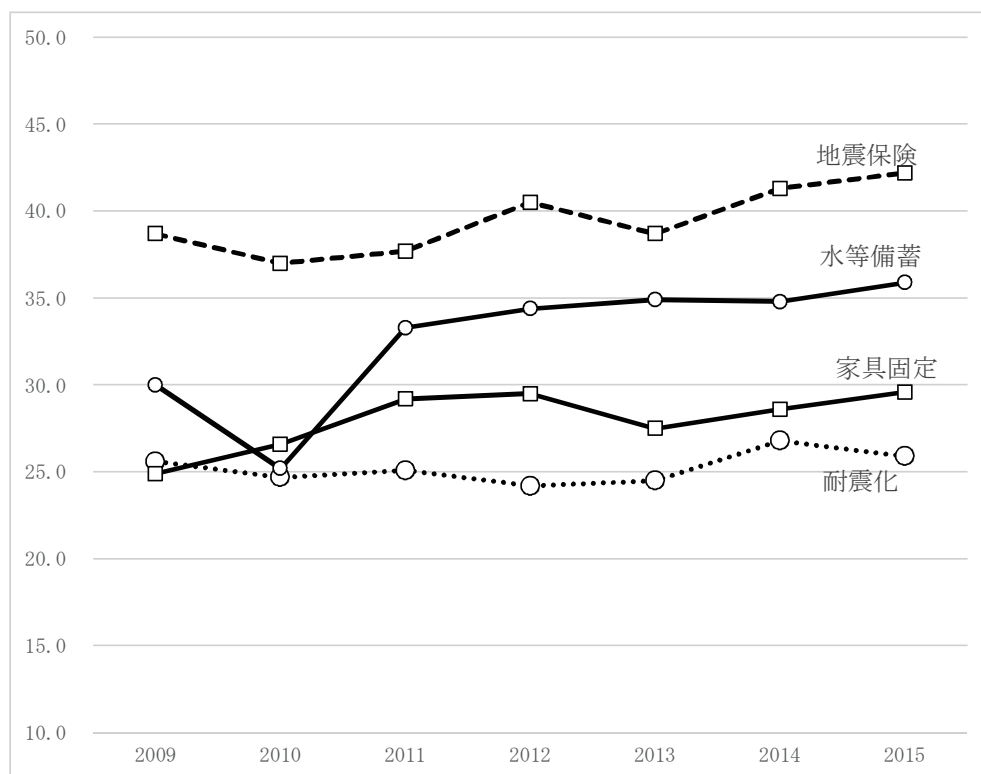


図 3.1.1 自宅の防災対策の実施率

3.2 災害の語り継ぎ

災害について語り継ぐ必要性が指摘されるが、災害の一般論ではなく、当該災害そのものについてどの程度語り継がれているのだろうか。図 3.2.1 に示したように、東日本大震災を話題にした人の比率は、全般的には年を経るとともに低下している。東日本大震災を話

題にした人は2011年度には76.5%に達していたものが、2015年度には53.7%と5年間で23ポイント近く減らしてきている。対前年比でも、2011年度に対して2012年度には90.7、2012年度に対して2013年度は90.6、2013年度に対して2014年度は93.1、2014年度に対して2015年度は91.8と、ほぼ毎年10%減を続けている。このことが、直ちにいわゆる災害の「風化」を意味しているとは限らないが、未だ復興途上である被災地の厳しい現実を考えると、周辺部の支援を動員しにくい環境につながる危険性がある。

参考までに、図3.2.1に阪神・淡路大震災の推移を示した。1995年の阪神・淡路大震災の発生から20年を迎えた2015年1月17日に最も近いのは2014年度調査の33.5%であり、15年目に当たる2009年度調査の56.7%と比べて、23ポイント近く減らしている。ただし、2012年度調査では32.8%まで下がったものが、2013年度調査では33.4%に、2014年度調査では33.5%と持ち直した。この時点で下げ止まったことも予想されたが、20年の節目をすぎた21年目となった2015年度では28.7%と率を下げた。対前年比でも、2009年度に対して2010年度には83.1、2010年度に対して2011年度には86.2%、2011年度に対して2012年度には80.9、2012年度に対して2013年度には101.8、2013年度に対して2014年度は100.2、2014年度に対して2015年度は85.7となっている。

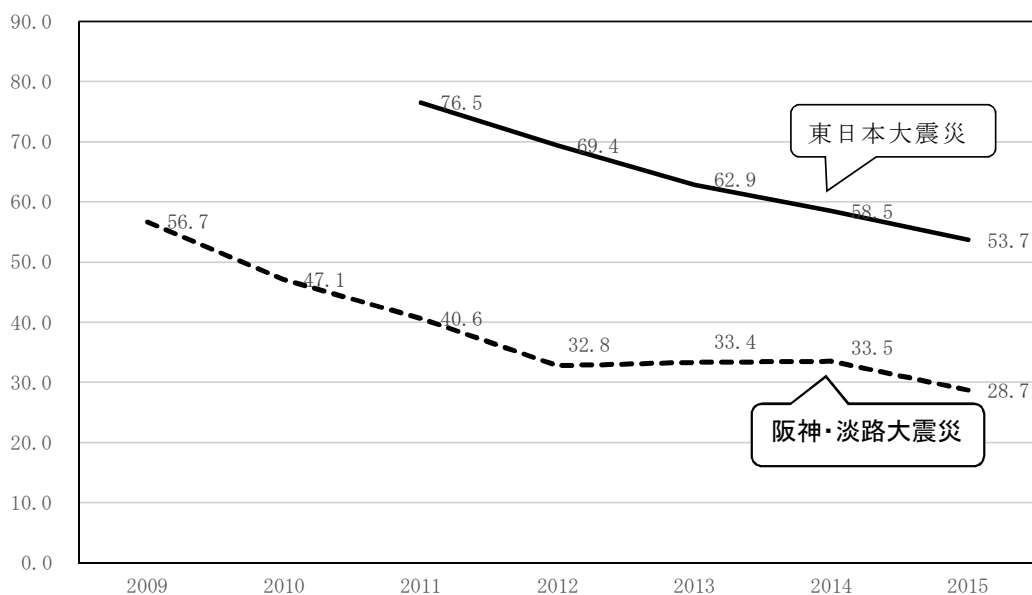


図 3.2.1 話に出た災害

表 3.2.1 東日本大震災について話した(地域別)

	2011	2012	2013	2014	2015	2015/2011
北海道	71.4	73.7	67.7	57.1	53.4	0.748
東北	88.3	82.7	83.7	81.1	75.0	0.849
関東	78.6	73.4	67.2	64.2	59.0	0.751
中部	76.2	64.1	58.0	51.6	47.0	0.617
近畿	71.7	64.2	55.2	53.8	47.5	0.662
中国	72.7	67.0	52.3	55.7	46.6	0.641
四国	75.0	66.3	57.6	45.7	53.3	0.711
九州・沖縄	75.2	65.8	61.9	51.6	49.0	0.652

表 3.2.2 阪神・淡路大震災について話した(地域別)

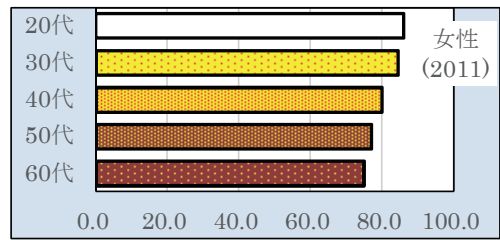
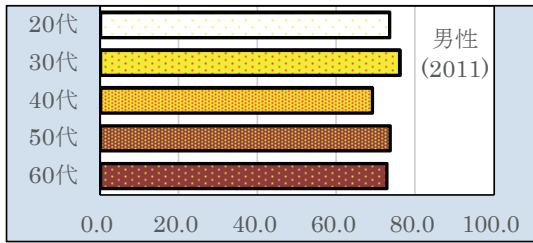
	2010	2011	2012	2013	2014	2015
北海道	39.3	27.8	22.6	34.6	28.6	21.8
東北	32.9	33.7	20.4	22.4	25.0	13.8
関東	42.1	35.2	27.7	28.1	25.4	23.7
中部	39.1	32.3	26.4	23.7	27.4	23.1
近畿	75.1	67.4	60.9	58.0	58.5	52.7
中国	54.7	51.1	35.8	39.8	45.5	34.1
四国	42.2	45.7	42.4	41.3	37.0	40.2
九州・沖縄	44.1	33.9	25.1	30.1	31.6	23.3

東日本大震災を話題にした率を地域別にみたのが表 3.2.1 である。表から次の 2 点を読み取ることができる。第 1 に、被災地を含む東北地方および関東地方で高いことである。東北地方では 2011 年度に 88.3% の人が、その後も 2012 年度 82.7%、2013 年度 83.7%、2014 年度 81.1% と 8 割を超える人が、2015 年度では 75.0% と 8 割を切っているが、依然として高い比率を維持している。関東地方も 2011 年度に 78.0% が話題にしており、東北地方に次ぐ高さとなっている。その後、年々減少傾向にはあり、2015 年度には 59.0% まで下がったものの、6 割の人が話題にしていることになる。第 2 に、2011 年度を 1 とした 2015 年度の指数でみると、東高西低の傾向を読み取ることができる。被災地を含む東日本の方が話題にした率だけではなく、減少傾向も小さい。逆にいえば、西日本では話題にした率も低く、減少の程度も大きいことになる。

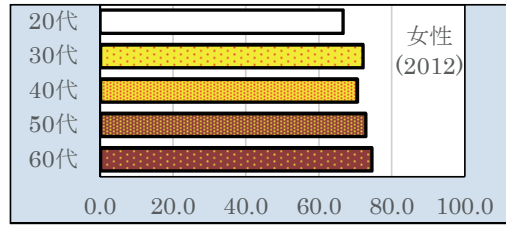
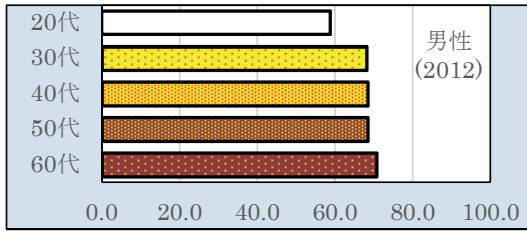
表 3.2.2 に参考として、地域別に阪神・淡路大震災について話題にした率を示した。阪神・淡路大震災については、逆に東低西高となっている。

また、性別・年代別に見たのが、図 3.2.2 である。参考として図 3.2.3 に阪神・淡路大震災について示した。一般的な傾向としては、図 3.2.3 に示した阪神・淡路大震災にみられるように、i) 年齢が上がるほど話題にする率が高い、ii) 女性のほうが男性よりも話題にする率が高い、iii) 表 2.3.3 の津波への不安の程度に示したように被災地内で語られ

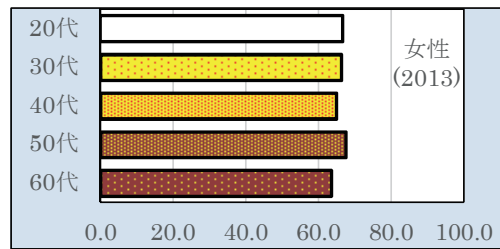
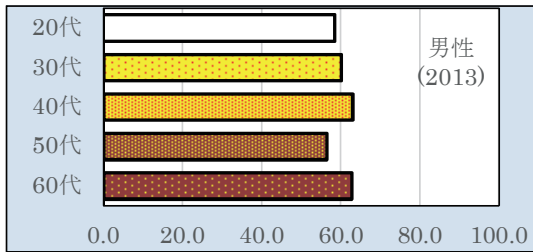
a) 2011



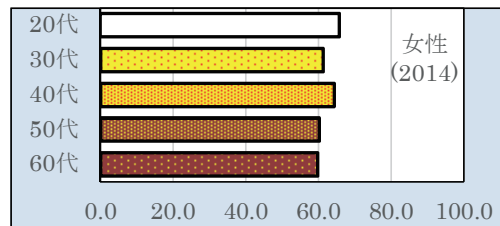
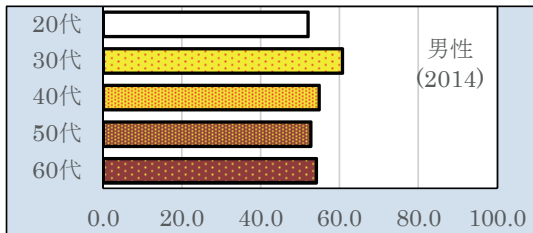
b) 2012



c) 2013



d) 2014



e) 2015

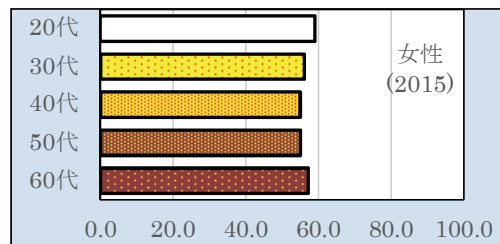
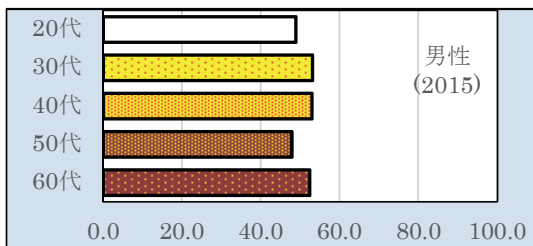
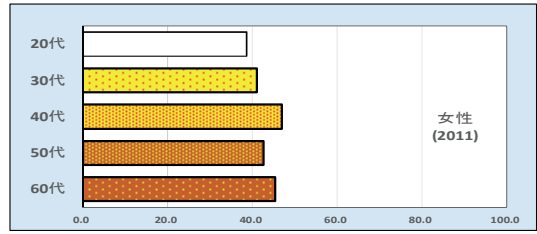
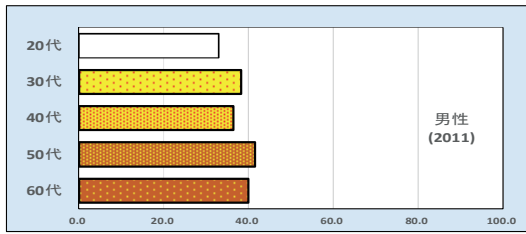
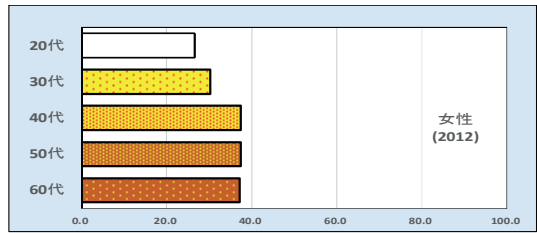
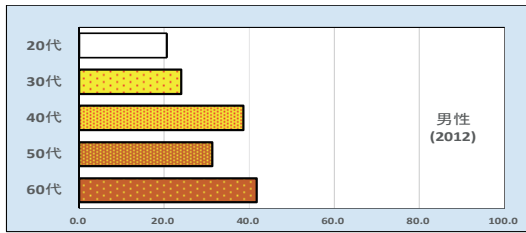


図 3.2.2 東日本大震災について話した(性別・年代別)

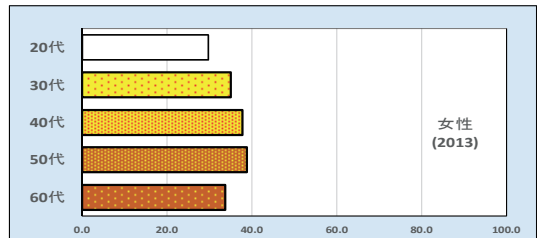
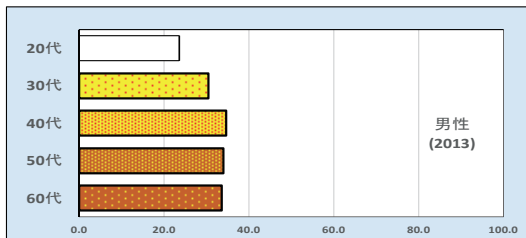
a) 2011



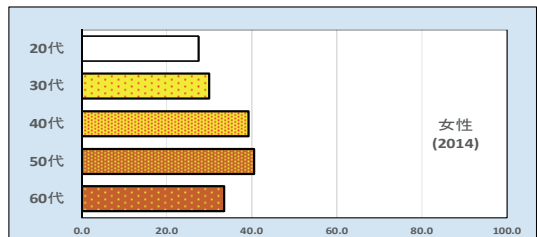
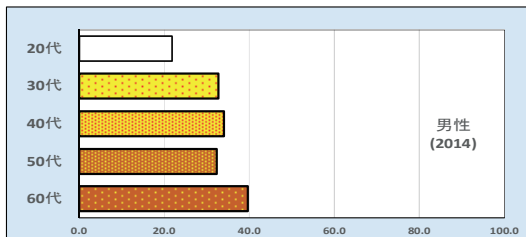
b) 2012



c) 2013



d) 2014



e) 2015

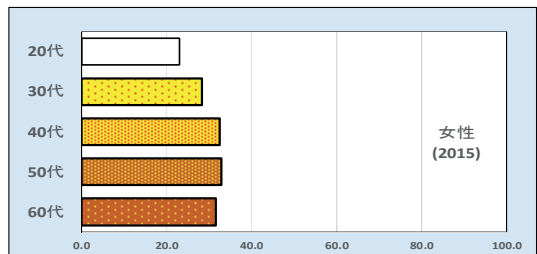
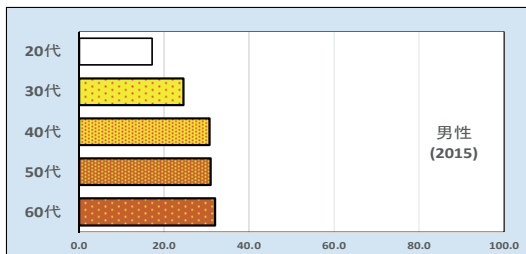


図 3.2.3 阪神・淡路大震災について話した(性別・年代別)

る傾向が強い。これに対して、東日本大震災を話題にした率については、一貫した傾向は認められない。しいていえば、女性が話題にする率が高い点と、女性では若い層でも話題にする率が高い点であり、表 3.2.1 で示した東日本大震災に話題にした率で述べたように被災地内で高い点であろう。

話題にしたという限られた指標だけから見ると、分析には限界があり、「風化」と呼ばれる現象に対して有効な提案も難しい。しかし、経年変化と合わせてみることで、たとえば阪神・淡路大震災については、全般的に見れば地震発生から 20 年の節目に、話題になる率は下げ止まっていた。ところが、図 3.2.3 をみると、壮年層で伸びているが、若い世代では変化は認められない。20 代男性に限ると、一貫して現象傾向にある。

震災を知らない世代にどのように伝えていくのか、阪神・淡路大震災の動向を踏まえつつ、東日本大震災の推移を比較分析していくことは必要と思われる。

附属資料 単純集計表

Q1. あなたは、日常生活の中で、どのようなことに不安を感じますか。次の (a) から (j) までの事項それぞれについてあてはまるものを一つだけ選んでください。

1. 景気動向

	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
非常に不安を感じる	48.8	39.6	40.6	32.3	20.1	23.6	20.7
やや不安を感じる	40.2	44.7	44.6	47.5	45.5	46.3	46.7
どちらとも言えない	7.4	11.1	11.2	15.1	24.3	21.8	24.9
あまり不安を感じない	3.0	3.6	3.2	4.1	8.4	6.1	5.8
まったく不安を感じない	0.8	1.0	0.5	1.1	1.7	2.2	1.9

2. 自分自身や家族の健康

	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
非常に不安を感じる	18.8	17.7	17.7	18.1	18.8	18.7	19.6
やや不安を感じる	50.4	52.0	51.2	48.8	49.8	48.5	47.4
どちらとも言えない	20.2	18.4	21.4	22.5	21.7	22.5	23.8
あまり不安を感じない	9.6	11.0	8.9	9.2	8.3	8.4	7.2
まったく不安を感じない	1.1	1.0	0.7	1.4	1.4	1.9	2.0

3. 犯罪

	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
非常に不安を感じる	19.0	12.5	13.3	12.1	11.5	11.4	11.8
やや不安を感じる	46.8	45.8	45.0	40.9	40.9	39.5	38.1
どちらとも言えない	23.4	28.4	29.2	31.8	30.3	32.2	33.7
あまり不安を感じない	9.9	11.6	11.0	13.4	14.5	13.7	13.1
まったく不安を感じない	1.0	1.9	1.4	1.9	2.9	3.2	3.3

4. 食品の安全

	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
非常に不安を感じる	12.4	9.9	18.6	10.6	16.0	17.0	12.2
やや不安を感じる	46.1	42.5	43.8	41.2	46.1	46.0	39.8
どちらとも言えない	27.5	30.6	25.3	32.9	26.1	25.6	33.2
あまり不安を感じない	13.1	15.3	11.2	13.7	10.1	9.4	12.2
まったく不安を感じない	1.0	1.8	1.1	1.6	1.8	2.0	2.5

5. 新型インフルエンザなどの感染症

	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
非常に不安を感じる	20.6	12.0	10.2	12.7	12.0	15.7	11.2
やや不安を感じる	45.4	46.7	45.0	46.3	44.0	44.1	38.9
どちらとも言えない	19.9	26.2	29.4	26.7	29.0	26.7	33.9
あまり不安を感じない	12.2	13.8	13.9	12.3	12.7	10.8	13.0
まったく不安を感じない	2.0	1.5	1.6	2.1	2.4	2.8	3.0

6. 自然災害

	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
非常に不安を感じる	20.0	14.0	25.6	24.0	22.6	22.8	19.8
やや不安を感じる	46.8	45.3	46.4	47.2	47.1	46.3	44.6
どちらとも言えない	22.5	27.4	20.8	20.3	22.0	21.8	25.2
あまり不安を感じない	9.8	12.0	6.4	7.1	6.7	7.3	8.1
まったく不安を感じない	1.0	1.4	0.8	1.4	1.6	1.8	2.2

7. 交通事故

非常に不安を感じる	13.8	11.4	11.9	13.0	13.3	13.4	13.6
やや不安を感じる	46.8	44.5	48.8	46.2	46.6	45.8	44.0
どちらとも言えない	28.9	32.3	29.5	31.0	29.9	30.2	31.8
あまり不安を感じない	9.6	10.5	8.8	8.3	8.6	8.9	8.3
まったく不安を感じない	1.0	1.4	1.0	1.5	1.6	1.7	2.3

8. 原子力事故

	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
非常に不安を感じる	9.9	8.4	32.3	20.5	21.5	17.9	16.4
やや不安を感じる	25.9	26.8	37.5	38.2	34.0	33.2	33.7
どちらとも言えない	35.1	35.3	21.1	27.2	30.0	30.6	32.7
あまり不安を感じない	22.7	23.3	7.6	11.1	11.0	14.5	12.7
まったく不安を感じない	6.6	6.3	1.5	3.0	3.6	3.8	4.6

9. 地球温暖化

	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
非常に不安を感じる	22.2	17.5	20.0	14.9	16.2	15.0	16.4
やや不安を感じる	42.4	41.7	43.3	40.4	40.3	41.1	41.7
どちらとも言えない	22.2	26.2	24.4	29.7	29.1	28.9	28.8
あまり不安を感じない	9.5	10.6	9.2	11.6	10.5	11.1	9.7
まったく不安を感じない	3.8	4.1	3.2	3.4	3.9	3.9	3.4

10. 年金や社会保障

	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
非常に不安を感じる	42.2	43.0	48.0	38.1	36.1	38.2	36.4
やや不安を感じる	42.0	41.4	38.5	43.3	44.4	41.0	41.4
どちらとも言えない	12.4	11.7	10.7	14.6	14.7	15.8	17.5
あまり不安を感じない	2.6	3.3	2.3	2.8	3.6	3.5	3.3
まったく不安を感じない	1.0	0.8	0.6	1.2	1.2	1.6	1.3

Q2. それでは、自然災害の中では、不安を感じる災害は何ですか。次の (a) から (g) までの事項それぞれについてあてはまるものを一つだけ選んでください。

1. 地震

	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
非常に不安を感じる	43.8	34.2	45.4	41.8	39.2	38.8	35.1
やや不安を感じる	43.2	48.3	42.3	44.1	45.6	44.9	46.0
どちらとも言えない	8.0	10.8	8.7	9.1	10.1	10.6	13.6
あまり不安を感じない	4.5	5.8	3.1	3.8	3.7	4.3	4.2
まったく不安を感じない	0.6	1.0	0.4	1.3	1.4	1.4	1.2

2. 津波

	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
非常に不安を感じる	5.0	5.1	15.4	12.7	11.8	11.1	11.2
やや不安を感じる	17.4	18.5	28.7	27.9	29.0	25.7	25.2
どちらとも言えない	23.9	25.2	24.5	24.4	25.5	27.0	28.9
あまり不安を感じない	35.0	35.7	22.8	25.1	23.9	24.2	23.0
まったく不安を感じない	18.8	15.6	8.6	9.9	9.7	12.0	11.6

3. 河川の氾濫

	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
非常に不安を感じる	4.8	5.6	10.2	8.4	8.7	8.8	9.9
やや不安を感じる	20.9	22.4	31.6	30.5	31.1	29.2	28.8
どちらとも言えない	28.4	25.9	29.6	29.3	29.8	31.2	32.7
あまり不安を感じない	34.1	35.7	22.3	24.5	24.0	22.8	20.9
まったく不安を感じない	12.0	10.5	6.4	7.3	6.4	8.0	7.7

4. 崖崩れや土石流

	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
非常に不安を感じる	5.7	5.1	8.3	7.4	7.5	8.1	8.0
やや不安を感じる	21.1	21.4	26.7	26.0	25.2	25.0	25.1
どちらとも言えない	26.9	26.8	30.3	29.9	30.6	31.5	32.6
あまり不安を感じない	31.7	33.9	25.9	27.0	27.7	25.2	24.3
まったく不安を感じない	14.7	12.9	8.7	9.8	9.0	10.2	10.0

5. 火山噴火

	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
非常に不安を感じる	4.7	4.5	7.4	6.8	6.4	9.4	8.4
やや不安を感じる	16.5	17.8	22.1	23.5	20.8	28.4	25.3
どちらとも言えない	26.6	27.5	29.5	29.7	31.2	28.7	31.9
あまり不安を感じない	32.0	33.3	27.2	26.3	28.9	22.6	22.9
まったく不安を感じない	20.3	17.0	13.8	13.7	12.7	10.9	11.6

6. 大雪

	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
非常に不安を感じる	8.1	7.0	7.7	8.3	8.8	12.3	8.8
やや不安を感じる	20.1	21.2	22.9	22.8	23.6	28.3	22.6
どちらとも言えない	23.4	24.2	27.8	28.3	28.3	27.8	31.1
あまり不安を感じない	30.8	31.3	27.1	26.7	26.4	21.4	23.3
まったく不安を感じない	17.8	16.4	14.5	13.9	12.9	10.1	14.2

7. 竜巻

	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
非常に不安を感じる	6.5	5.5	6.5	8.8	10.6	9.9	8.7
やや不安を感じる	24.9	25.9	23.9	32.1	34.8	32.7	28.9
どちらとも言えない	29.3	30.4	33.2	32.1	30.3	31.5	34.3
あまり不安を感じない	26.4	27.3	26.2	19.6	19.0	19.3	20.0
まったく不安を感じない	13.1	11.0	10.1	7.4	5.3	6.6	8.1

Q3. あなたは、自然災害に備えて何か対策を取っていますか。それぞれについて一つだけ選んでください。

1. 自宅の耐震化

	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
対策をとっている	22.3	20.9	21.6	20.6	20.7	22.3	21.7
必要だが対策をとっていない	64.9	63.8	64.3	64.4	63.6	61.0	61.9
対策の必要はない	12.9	15.3	14.1	15.0	15.7	16.6	16.4

2. 地震保険の加入

	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
対策をとっている	35.1	32.5	33.4	35.6	34.3	35.9	37.2
必要だが対策をとっていない	55.6	55.4	55.2	52.2	54.2	51.1	50.8
対策の必要はない	9.4	12.2	11.4	12.2	11.6	12.9	12.0

3. 家具の固定

	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
対策をとっている	23.7	24.9	27.6	27.5	25.6	26.2	27.3
必要だが対策をとっていない	71.3	68.8	66.9	65.6	67.5	65.5	64.9
対策の必要はない	5.0	6.3	5.5	6.9	7.0	8.4	7.8

4. 地盤の嵩上げ

	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
対策をとっている	8.3	7.6	6.8	6.1	7.2	7.4	8.6
必要だが対策をとっていない	49.4	47.4	48.3	47.4	48.3	47.6	49.8
対策の必要はない	42.4	45.1	44.9	46.4	44.5	44.9	41.6

5. 地下・半地下の浸水対策

	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
対策をとっている	6.2	4.0	4.4	3.7	4.0	4.8	5.7
必要だが対策をとっていない	41.7	39.5	42.3	42.6	45.3	44.5	46.8
対策の必要はない	52.2	56.6	53.3	53.7	50.7	50.7	47.5

6. 水・食糧の備蓄

	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
対策をとっている	28.0	23.0	31.2	32.2	32.9	32.3	33.4
必要だが対策をとっていない	65.4	68.4	62.6	61.3	61.4	60.4	59.5
対策の必要はない	6.7	8.7	6.1	6.5	5.7	7.4	7.1

7. ラジオや懐中電灯の用意

	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
対策をとっている	56.7	52.5	63.2	61.1	57.7	56.1	52.9
必要だが対策をとっていない	39.7	42.3	33.0	33.9	38.1	37.7	41.0
対策の必要はない	3.7	5.3	3.8	5.0	4.2	6.1	6.0

Q4. あなたは、以下の気象情報等災害に関する情報を聞いたことがありますか。聞いたことのあるものをすべて選んでください。

	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
大雨警報	80.8	81.6	83.2	81.2	80.9	80.7	79.7
土砂災害警戒情報	31.4	35.8	43.2	40.0	46.8	50.9	49.2
噴火警報	8.5	8.4	8.6	7.1	6.8	14.5	23.5
緊急地震速報	56.1	61.3	79.3	74.7	76.8	74.4	72.3
東海地震に関連する調査情報	13.1	12.5	11.8	17.5	16.3	13.6	12.3
竜巻注意情報	9.2	19.2	21.3	34.1	35.3	33.3	29.8
洪水ハザードマップ	19.4	23.7	29.6	30.4	30.7	33.0	32.9
はん濫危険情報	-	-	-	-	-	-	18.4
避難準備情報	8.1	9.8	15.3	14.7	17.5	22.6	22.9
記録的短時間大雨情報	25.2	29.2	27.8	31.0	30.4	34.5	31.4
特別警報	-	-	-	-	27.6	34.0	30.3
聞いたことがない	13.2	11.4	6.8	9.5	8.6	9.0	10.0

Q5. 大きな揺れが到達する前に、地震の発生を知らせる緊急地震速報が一般に提供されていますが、あなたは、この緊急地震速報を実際に受けたことがありますか。

	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
実際に受けたことがある	-	27.0	54.7	47.9	62.1	62.2	60.8
受けたことはない	-	73.1	45.3	43.4	30.2	29.0	29.4
わからない	-	-	-	8.8	7.7	8.8	9.8

Q6. 緊急地震速報をより使いやすくするためには、どのようなことをすればよいと思いますか。あてはまるものをすべて選んでください。

	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
あと何秒後に、大きな揺れが来るかを知らせて欲しい	-	50.0	48.4	52.7	55.0	48.4	48.4
どれくらいの揺れなのか、揺れの強さを知らせて欲しい	-	50.0	53.2	55.6	57.5	51.5	50.0
どの携帯電話でも受けられるようにして欲しい	-	50.4	46.9	41.5	40.3	39.4	38.9
テレビやラジオを消していても、緊急地震速報がでたら自動的に付いて、知ることができるようにして欲しい	-	56.0	53.8	44.2	40.5	41.3	38.6
緊急地震速報を聞いたら、具体的に何をすればよいかを教えて欲しい	-	41.8	36.2	26.8	28.4	28.3	28.8
誤報の場合は、すぐに誤報を撤回する速報を出して欲しいと思う	-	-	-	-	43.8	36.9	33.7
とくにない	-	7.8	8.0	6.6	6.2	7.1	12.1

Q7. 大雨特別警報は、数十年に一度の大雨のおそれが大きい時に発表されます。この大雨特別警報について、以下の中であなたのお考えにあてはまるものすべてを選んでください。

	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
大変なことが起きるのではないかと不安になる	-	-	-	-	-	-	38.5
特別警報はおおげさであると思う	-	-	-	-	-	-	5.5
今すぐ避難をしなければならない	-	-	-	-	-	-	13.4
特別警報が出たら、具体的にどうすればよいか教えて欲しい	-	-	-	-	-	-	44.5
特別警報をスマートフォンなど携帯端末に送ってほしい	-	-	-	-	-	-	33.6
とくになし	-	-	-	-	-	-	9.0
聞いたことがないので、よくわからない	-	-	-	-	-	-	9.3

Q8. 災害対策基本法が改正され、自宅の2階以上に上がることも避難として位置づけられました。この変更を、あなたにご存知でしたか。あてはまるものをひとつ選んでください。

	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
聞いたことはなく、初めて知った	-	-	-	-	-	57.4	60.7
聞いたような気もするが、はっきり覚えていない	-	-	-	-	-	20.2	19.2
どこから聞いたかははっきりしないが、聞いて知っていた	-	-	-	-	-	8.7	8.1
テレビや新聞などから見聞きして知っていた	-	-	-	-	-	11.7	9.0
市町村等から聞いて知っていた	-	-	-	-	-	1.7	2.9
その他(具体的に:)	-	-	-	-	-	0.3	0.1

Q9. 災害に対して、いろいろな考え方があります。あなたの次(1)～(3)の考え方について、どのように思いますか。もっとも近いものひとつをそれぞれ選んでください。

1. 今の世の中では、一人一人の人間はあまりにも無力である

	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
そう思う	-	-	22.3	33.0	-	-	35.6
まあそう思う	-	-	44.6	47.7	-	-	49.5
あまりそう思わない	-	-	26.1	16.9	-	-	13.1
まったくそう思わない	-	-	7.0	2.3	-	-	1.8

2. 人間がどんなに対策をとっても「自然災害による被害」は防ぎようがない

	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
そう思う	-	-	24.9	35.7	-	-	34.5
まあそう思う	-	-	45.4	48.8	-	-	49.0
あまりそう思わない	-	-	23.8	13.5	-	-	14.2
まったくそう思わない	-	-	5.9	2.0	-	-	2.2

3. 科学で解明されたことは世の中のごく一部にすぎない。人知の及ばぬことが世の中にはたくさんある

	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
そう思う	-	-	42.9	53.0	-	-	47.2
まあそう思う	-	-	47.4	41.4	-	-	45.1
あまりそう思わない	-	-	8.1	4.6	-	-	6.3
まったくそう思わない	-	-	1.6	1.1	-	-	1.3

Q10. 災害が発生した時に、次のような対策がとられることがあります。そのような対策がとられることを聞いたことがありますか。聞いたことのあるものをすべて選んでください。

	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
災害用伝言ダイヤル(固定電話用)を開設する	61.2	61.9	69.1	62.5	60.4	58.3	58.3
災害用伝言板(携帯電話用)を開設する	57.2	56.5	66.4	60.7	60.3	56.9	55.1
電話が混み合うので、一般通信を規制する対策(輻輳対策)を実施する	43.7	44.8	51.8	48.8	44.3	39.4	39.8
震度5程度で各家庭のマイコン・メーターが作動し、都市ガスの供給を停止する	29.7	32.6	36.2	32.4	31.3	33.7	32.1
震度5程度で線路の安全を確認するために電車を停止する	30.3	32.2	39.5	33.4	32.9	29.2	30.4
地震を感知すると電気を遮断する、感震ブレーカーがある	-	-	-	-	18.6	19.1	21.4
停電後に電気の供給を開始する前に、各家庭の電気器具の安全を確認する	12.1	18.4	27.4	22.2	21.5	21.9	22.0
聞いたことがない	18.2	15.0	11.1	14.3	14.1	16.3	16.9

Q11. あなたは、次の災害について、家族や友人、同僚などと話をしたことがありますか。最近、話をしたことのあるものをすべて選んでください。

	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
1923年関東地震(関東大震災)	15.3	15.5	16.4	13.4	16.5	15.0	14.5
1934年室戸台風	4.0	3.4	3.8	3.2	3.3	3.2	3.6
1944年・46年東南海地震・南海地震	-	2.3	2.8	2.2	2.8	2.3	2.2
1947年カスリーン台風	2.0	0.9	1.2	1.3	1.1	1.3	-
1948年福井地震	-	2.0	2.1	1.3	1.7	1.5	-
1959年伊勢湾台風	16.4	12.6	14.8	11.7	13.2	12.0	11.8
1960年チリ地震津波	-	9.0	13.6	9.4	9.6	8.7	7.8
1990年からの雲仙普賢岳噴火	17.5	16.4	17.7	13.2	14.7	14.7	12.1
1993年北海道南西沖地震	10.6	10.8	11.9	8.3	9.8	7.7	6.5
1995年兵庫県南部地震(阪神・淡路大震災)	56.7	47.1	40.6	32.8	33.4	33.5	28.7
2000年有珠山噴火災害	8.8	9.3	9.6	8.2	7.7	8.2	7.1
2000年からの三宅島噴火災害	13.0	12.9	13.8	12.2	14.0	12.0	9.7
2000年東海豪雨	9.4	8.1	8.0	5.7	6.5	6.2	5.3
2004年新潟県中越地震	28.7	23.8	23.2	18.7	19.2	20.1	14.7
2004年台風23号	9.1	5.5	6.9	4.9	5.7	5.0	4.6
2005年大雪	9.3	7.9	6.9	6.7	6.4	6.2	5.8
2007年新潟中越沖地震	32.0	27.1	26.5	20.8	19.2	18.3	16.3
2008年岩手・宮城内陸地震	20.1	14.8	14.0	11.1	10.1	9.9	8.8
2011年東北地方太平洋沖地震(東日本大震災)	-	-	76.5	69.4	62.9	58.5	53.7
2011年台風第12号	-	-	30.3	12.8	7.9	4.7	3.5
2013年台風第18号(福井県、京都府及び滋賀県に対し大雨特別警報が発表)	-	-	-	-	21.0	10.8	7.1
2013年台風第26号(伊豆大島で大規模な土砂災害被害)	-	-	-	-	29.3	13.7	7.1
2014年8月豪雨(広島土砂災害)	-	-	-	-	-	38.4	19.9
2014年御嶽山噴火	-	-	-	-	-	53.0	30.2
2015年関東・東北豪雨	-	-	-	-	-	-	21.3
口永良部島噴火災害	-	-	-	-	-	-	12.8
大涌谷(箱根山)周辺の噴火活動	-	-	-	-	-	-	23.2
話したことはない	24.8	31.6	12.3	19.3	21.8	18.5	24.3

Q12. 国や地方自治体に重視して欲しい対策は何ですか。次の中から進めて欲しい対策をいくつでも選んでください。

	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
地震予知や火山噴火予知研究	40.2	46.9	53.0	43.2	45.2	50.2	43.6
ダムや堤防等施設整備	12.9	13.8	26.6	21.4	18.0	17.4	18.7
街の耐震化の推進	59.7	55.4	51.6	45.3	41.6	34.3	34.4
防災教育	33.3	34.7	42.7	40.2	35.5	33.1	32.9
河川や活断層の近くや土砂災害危険区域の立地規制	27.8	26.0	37.4	30.0	26.2	27.9	26.3
救出・救助体制の充実	55.7	52.2	55.2	46.6	42.0	37.2	35.1
緊急時の警報や避難勧告の迅速かつ的確な発表・発令	64.1	62.2	68.1	60.1	56.9	54.2	49.7
避難施設の充実	59.1	53.4	58.7	53.9	51.6	45.4	44.5
被災後の住宅や生活再建の支援	66.5	63.7	67.9	60.1	52.5	47.4	43.9
この中にはない	3.4	5.3	-	7.3	8.8	9.5	12.0

■あなたご自身についてお伺いします。

Q13. 現在お住まいのご自宅には何年住んでいますか。

	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
1年未満→ ヶ月	6.7	7.0	6.5	6.9	7.5	7.2	7.4
1年以上→ 年	93.3	93.1	93.5	93.1	92.5	92.8	92.6

性別

	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
男性	50.0	50.0	50.4	50.4	50.4	50.4	50.4
女性	50.0	50.0	49.6	49.6	49.6	49.6	49.6

年齢

	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
平均値	-	-	-	45.1	45.2	45.3	45.4
最小値	-	-	-	20.0	20.0	20.0	20.0
最大値	-	-	-	69.0	69.0	69.0	69.0